

ページ

新・宮城の将来ビジョンシリーズ

2 PROGRESS ~ともに創ろう、躍進する宮城の未来~
山元町子どもミュージカルプロジェクト

特集1

4 みやぎ・復興の歩み

特集2

6 目指せ 祝・メタボ卒業

特集3

8 宮城の魅力を世界に発信
「みやぎ絆大使」第10期
新たな大使の皆さんを紹介します

県政ニュース

10 みやぎの豊かな住生活を目指して

県政ニュース

11 5月13日から高齢運転者の
運転免許更新制度が大きく変わります

12 7つの地域から虹メール

14 お出かけガイド

みやぎのふるさと通信(大河原町)

16 県立施設インフォメーション

17 新型コロナウイルス感染症に関する
お知らせ

18 県からのお知らせ

みやぎの人口(令和3年12月末現在)

住民基本台帳人口	2,268,361人	世帯数	1,023,972世帯
男	1,106,187人	※うち、外国人住民基本台帳人口は20,746人です。	
女	1,162,174人		

今号の表紙

桜の季節が待ち遠しい!

まだまだ寒い日が続きますが、長い冬の終わりが見えてきました。少しずつ春の香りが感じられるようになり、生命の息吹を感じます。



仙台・宮城観光PRキャラクターむすび丸



鑑賞する保護者・地域の方々の温かいまなざしと、子どもたちの達成感に満ちあふれた笑顔が印象的



ミュージカルプロジェクトを運営する皆さんさまざまな団体が一体となって活動している



子どもの笑顔元気ミュージカル ~「おとぎの森へ!」~(2019年)

第5回

子どもたちの笑顔を 復興の原動力に

山元町子どもミュージカルプロジェクト

新ビジョンでは、「政策を推進する4本の柱」+「復興の柱」を掲げています。第5回となる今回は「復興の柱」から、子どもミュージカルプロジェクトを通して、地域全体の心の復興や地域活性化を目指す、NPO法人子育てひろば夢ふうせんの佐藤作智栄さん、プランニング開の渡辺りかさんにお話を伺いました。

―事業を始めた経緯は?

復興への道のりで染いた数々のつながらり渡辺さん■子どもを元気にするさまざまな活動を企画しているプランニング開では、震災直後から物資支援を行うとともに、子どもたちへの支援として遊びの場を提供していった。その一環として始めたのが子どもミュージカルプロジェクトです。「震災の辛い記憶を上回る楽しい記憶、素敵な思い出を作ってあげたい」という思いからこのプロジェクトを始めました。

佐藤さん■地域の子育て支援に取り組んでいる夢ふうせんでは、以前から、子どもの教育支援に力を入れるプランニング開さんの活動に関心がありました。

多くの方々からの復興に向けた支援や、さまざまなつながりを通して、念願がなつて

関わってくださるようになりました。山元町の保護者が中心となり、今年の開催に向けて、「やまもと楽しみ隊」を昨年末立ち上げました。「町民で作るミュージカルプロジェクト」として活動が継承され、地域に根ざした活動になりつつあります。当初の理想的な形に近づいてこそうれしく思います。

―まちの将来を担う人づくりは?

震災伝承が自分の使命
佐藤さん■震災当時4歳で、ミュージカルプロジェクトにも参加した息子は、さまざまな活動を通して、「震災の記憶がある最後の世代として自分が伝承していかなければならない」と、防災士の資格を取得し、防災活動に取り組んでいます。この他にも、プロジェクトを通して演劇を学び始めた子や、将来の夢を見つけて歩んでいる子どもたちがたくさんいます。

2017年に、プランニング開さんと一緒にプロジェクトを始めることになりました。プロジェクトに当たっては、県の「文化芸術の力による心の復興支援助成金」も活用しました。当初は1回きりのイベントの予定でしたが、予想を大いに上回る参加希望者の数と反響があり、これまでに山元町では4回のミュージカル公演を行いました。

―事業の内容は?

子どもたちと作り上げるミュージカル
渡辺さん■4歳〜高校生までの子どもたちが一堂に会し、ミュージカルを作っていきます。練習は3日間という短い期間ですが、とても濃い時間となっています。せりふや動きを教えるというより、子どもたちがどうしたいか、対話の中でミュージカルを一緒に作っていくことを心がけています。そうした稽古の中で、「自分から挑戦してみたい、発信してみたい」と能動的に行動できる力を育みます。練習を進めていくと、子ども同士でのディスカッションが始まり、お互いの意見を聞きながら、より良いミュージカルにしていこうと練習に取り組む姿が見られます。

佐藤さん■子どもの成長を一番近くで見ている保護者の方々も、次第に、運営に積極的に

―地域との関わり合いは?

子どもの元気がまちの元気に
渡辺さん■当初は、子どもたちのためにという思いが強かったのですが、次第に大人への勇気づけにもなっていることに気づきました。子どもたちが全身を使って、笑顔で頑張る姿を見ると、大人は元気になります。「困難に遭ったときにどう立ち向かうのか、困難を乗り越えるのは一人の力ではない」といったテーマで行ってきたミュージカルを通して、鑑賞された多くの方々にメッセージを届けることができたいと思います。

佐藤さん■コロナ禍の前は、地域の方々も観客としてミュージカルを見ることができ、会場から溢れるほどの人が集まりました。講演後の見送りの際に、地域の方々が「元気をくれてありがとうね」と子どもたちに声をかけてくれたことがとても印象的でした。



NPO法人子育てひろば夢ふうせん
佐藤作智栄さん(右)
プランニング開
渡辺りかさん(左)

また、下は3歳、上は80代のさまざまな世代が集い、「ダンスのまち山元町」として、地域全体を盛り上げていく活動もあります。こうした地域とのつながりも大切にしながら、このプロジェクトをより地域に根ざした活動にしていきたいと思っています。



自然と子ども同士の輪ができて、子どもだけの練習が進んでいく



楽しみながら、一生懸命練習に取り組んでいる子どもたち

令和3年度から、今後10年間の県政運営の基本指針となる「新・宮城の将来ビジョン」(以下「新ビジョン」)がスタートしました。本シリーズでは、新ビジョンの理念である「富県躍進」を目指し、政策を推進するための重要な視点である「人づくり」「地域づくり」「イノベーション」「SDGsの推進」に焦点を当て、県内の企業・団体などを紹介します。